

南宋賈似道刻宣示表原石搨本

附柳書法神效

癸未三月為

小池良雄先生歌

西溪居士



尚書宣示絲權所求詔今前報所以博示
逮于卿佐必異良方出於阿是多羨之
言可擇郎廟况絲始以踪賤得為前恩橫
茲貽睨公私見異爰同骨肉殊遇厚寵以至
今日再世榮名同國休感敢不自量竊致異

「落ち穂拾い記」⑥1 伝・賈似道刻『宣示表』

淳化閣帖本

賈似道本



図2 淳化閣帖本との部分比較

図3 神州大観誌9号



図4 金冬心跋文



図5 巻頭の小子の題刻
「羲之臨鍾繇帖」



図6 木鷄室金石拾遺・第2集



『洛神賦十三行』以外にも宋の宰相・賈似道かじょうの制作と伝えられる小楷がある。魏の鍾繇しゅうぎょうの書とされる『宣示表』である。30代頃に「南宋賈刻宣示表原石揚本」の題簽のある小楷帖を入手した(王國版①)。最初は法帖が、印刷でなく、拓刷りで、羅紋箋を用いた丁寧な装本であり、何よりも宣示表の書風と刻の美事に惹かれた。各種の小楷帖などと比較するも、この賈似道刻とされる『宣示表』の影印されたものを見いだすことは出来なかった。『中國書道辞典』(中西慶爾著)の宣示表の項には、刻本が多いとして、賈似道刻本は刻が精れ、淳化閣帖や大観帖などの集帖に収録されたものよりも優れているなどと記し、次いで伝来について言及し、最後に「この拓本は、容易に得難く、石の所在も今は判明しない」と。そして小さな大観帖本「宣示表」の図版を示している。確かに各種の本と比較するも、賈似道刻本は精巧な刻であり、淳化閣帖本などは、点画の筆勢がかなり異なり、書風も優れている(図2)。その後、戦前の民国年間に刊行された金石書画を精印した大版の『神州大観』誌の第9号(民国4、1915年刊)にやや縮小であるが、清朝後期の名家の題記の付せられた『宣示表』賈似道刻本が掲載されているのを見いだした(図3)。まさに家蔵本と同石拓であった。魏の鍾繇の賈似道刻『宣示表』の善本であると確認できた。この『宣示表』には、原石に付されてあると思われる清朝後期の金石名家8人の跋文も拓刷りで付されている。書画家としても有名な金冬心の楷書の跋もある(図4)。また本帖の巻頭の第1行目上端の「尚書」の右横に細字で「羲之臨鍾繇帖」と刻されている(図5)。古くには、この宣示表は、書聖・王羲之の臨書として伝えられていたのであろう。1985年に『賈似道刻本宣示表』を主に他の鍾繇作品九種を収録し、木鷄室金石拾遺・第2集『鍾繇』として刊行した(図6)。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

書のひろば

理事長 下谷洋子

明けましておめでとございます

令和7年巳の年となりました。

新しい年が、皆様にとりまして平和な幸多い日でありますことを祈念いたします。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

第78回書道芸術院展

一般公募・無鑑査作品搬入・鑑別審査終了

昨年の11月26日に搬入された第78回書道芸術院展一般公募・無鑑査の作品は、12月7日、浅草橋の文具共和会館で鑑別・審査が行われました。

前日、出品点数の多い漢字・現代詩文書部の一般公募・無鑑査の主任・副主任は、審査部の正副部長とともに集まっていたいただき、今回展の審査方針等の打ち合わせを致しました。

出品点数は、昨年に引き続き各部署若干減少したため、7日夕方には全部門の鑑別・審査は終了し、漢字・現代詩文書部のみ、翌日残務整理にあたりました。

結果は既に発表され、一般公募の入選以上と無鑑査の作品は表装の上、1月27日に東京都美術館に搬入されます。
表彰式 2月8日15時受付



理事・監事の互評会



漢字部の鑑別審査風景

・祝賀会 同日 17時30分から
◎会場は両方とも上野精養軒です
(他解説会等は要項確認)

院評議員・理事監事作品互評会開催

12月11日は評議員、翌12日は理事監事と、今年も78回書道芸術院展に向けた互評会を行いました。6月に役員改選もあったため、初めての参加者もいました。他部門への理解と、お互いの作品の向上を求めて始めた互評会は、理事は4回目、評議員は3回目となりますが、なかなか発言の幅が広がらないのが現状です。もっと自由に意見が飛び交い、みずみずしい発想の作品へとつながることを、自戒を込めて思いました。

毎日書道理事会開催

12月16日如水会館にて、令和6年度第3回理事会が開催されました。

主な議案

- ・令和7年度事業計画
- ・第76回毎日書道展
- ・各種展覧会、事業、出版の件
- ・2026 現代の書 新春展開催の件
- ・第34回国際高校生選抜書展開催の件
- ・令和7年度(一財)毎日書道会の収支予算を承認する件
- ・第76回毎日展の主要役員人事の件
- ・主要役員(先月号に掲載)
- ・運営委員(本院関係)
- 漢字部 名越蒼竹
- 近代詩文書部 大平邑峰
- 大字書部 小林琴水
- 前衛書部 大石仙岳

・第76回毎日書道展での資格(昇格)の承認(本院関係)

参与会員へ

前衛書部 板垣洞仙
審査会員へ

漢字部 西川翠嵐
かな部 見越雪枝
近代詩文書部 鈴木英晴
大字書部 浜口瑞香
前衛書部 一條紅簫
会員へ

漢字部 青木藤連
かな部 徳永美恵子
近代詩文書部 坂本龍水
大字書部 市川将義
藤原聖美

前衛書部 伏津玲子

高野山書道協合理事会開催 第59回展主要人事決定

12月8日、東京別院にて理事会が開催され、59回展の概要が決まりました。

- ・59回展審査委員長 松井玉笋
- ・運営副委員長 種谷萬城
- ・運営委員 千葉蒼玄

(本院関係)

- ・出品締切 5月14日
- ・2次審査 5月29(30)日 (東京別院)
- ・最終審査 5月31日
- ・物故者法会 7月31日(高野山奥の院)
- ・表彰式 8月1日(総本山金剛峯寺)
- ・展示会 8月1(17)日(総本山金剛峯寺)
- ・関東展示会 8月29(31)日(東京別院)

新年賀謹



新年おめでとーいになります

令和7年巳の年(乙巳)となりました。昨年は、新年早々、能登半島大地震で衝撃を受け、その後もかつて聞いた事のないニュースが続き、加えて百年に一度の酷暑など、国内のみならず不穏な空気は世界中を覆っています。

そのような中、書道界は、毎日書道展が75回という節目を経て、各団体もそれに等しい歴史を重ねる時期となっています。

今年は、昭和改元から100年、昭和22年に誕生した本院も先達の先生方の熱意と努力によって成熟を見て来ましたが、ここに来てなかなか難しい局面を迎えているのが実情です。こうした混迷の時だからこそ、頭を上げ、前を向きたい。それぞれにとって、書がかげがえのないものであって欲しいから、各部門、各世代のつながりを深めて、強く熱く魅力のある書道芸術院を目指したいと思います。

巳年は、成長、変革の年とも言われています。そうかと言ってあせらず、鍛錬の積み重ねを続けましょう。役員一同も心して臨み、精進してまいります。

皆さま方のご健康を祈り、より一層のご協力ご支援をお願いし、年頭のご挨拶といたします。

令和7年元旦

公益財団法人書道芸術院理事長

下谷 洋子
役員一同

顔氏家廟碑拓本



顔氏家廟碑 臨書



基本点画



顔氏家廟碑 做書「剛健」



字形の特徴

向勢・背勢・直勢



楷書6 顔氏家廟碑
 ○顔真卿(709~785年)は、字を清臣。顔魯公、顔平原とも呼ばれる。唐王朝における無二の忠臣として史上名高い。安祿山の乱の際、華北二十四郡中、唯一人安祿山に加担せず、乱の平定に果たした功は大きい。晩年は李希烈の乱にて、拘留され、拘留3年にして殺された。書は、王羲之の流れを引いた在来の書に新生面を切り開いた革新書派の祖として高い地位が与えられている。肉太な線と、胴にふくらみを持たせた文字の構成により醸し出される重厚美は、以前の書に例のない堂々たる風貌を見せる。初唐の三大大家に加え、唐の四大家と称される。その書が後世に与えた影響は大きく、柳公権や空海など多くの作品に影響が窺える。顔氏家廟碑は、建中元年(780年)刻。父・顔惟貞の功績を顕彰し、子孫の功績を称えた、顔真卿72歳の撰・書による四面碑。顔真卿晩年の、重厚で堂々たる風格の楷書。題額は李陽水の篆書。西安碑林博物館に現存。

○臨書にあたっては
 1、筆は鋒先の短いもの(短鋒)を用いる。
 2、墨は濃墨。墨量は多め。
 3、起筆、送筆、収筆に独特の弾力を生かした筆遣いがされる。
 4、重厚な運筆。太く厚みのある線質の表現。
 5、字形は向勢に作る。
 6、余白は少ない

ユーチューブ「筆のサロン」に臨書と做書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。QRコードでアクセスできます。



基礎基本講座

愈々、実際に印材に刀を入れ、作品を創って、いきましよう。印材は、左手に持って彫ることもできますが図のような「印床」、いんしょうと読みます。これに、印材を固定させて、印材が動かないようにしてから彫り始めます。

そして愈々、「印刀」、いんとうと読みます。印刀で印材を彫り始めます。印刀も大小、太細、様々あります。彫る印材の大きさなどにて、使い分けると良いでしょう。

では、彫りに入りましよう。印材に対して、ある程度の角度をつけると「スムーズ」に彫り進めることができます。

これは、何度か彫ってみて、ご自分で会得されるの良いと思います。一度、感覚で体得してましよう、まずは、一度、彫ってみましよう。

篆刻では、文字を彫り込むのを「白文」、反対に文字を残して、余白部分を、彫り込むのを「朱文」と言います。

各人、得手不得手があり、ご自身で実際に、取り組んでみて、彫りやすい方から、やってみましよう。

彫る、方法としては、実線を最初から彫るのではなく、まずは荒彫りをして、大まかな線を彫ってからにすると良いでしょう。

では、次回は印材の種類など、印材のことについて、お話し致しますましよう。



書道芸術院

令和の群像 (2025)



青柳明華

「大字書を楽しむ」

原稿依頼を受け、何を書こうかと考えた時、すぐ浮かんだのは大字書でした。私にとっては、書道の勉強において、大字書が一番のウエイトを占めていました。蛭雪書道会の小浜大明先生の教室へお稽古に通う中、44年前に小浜先生より、「大阪から恩地春洋先生、小林琴水先生がご指

導に来て下さるから大字書をやりましょう!!」と誘って頂いたのが大字書始めるきっかけでした。私は、習い初めた最初から大きな筆で大きな紙の上を走り回れる大字書に魅力を感じ好きになりました。それと、大字書を楽しみながらも、遊びが加わっていったことが、さらに大字書へのめり込んだ要因でした。遊びとは、大阪の玄遠社そして春洋会の研究会へ蛭雪書道会の仲間と旅行気分に参加させて頂いたことです。今まで本当に楽しく勉強してこられたことはご指導して頂きました先生方のお蔭と一緒に、勉強する仲間がいてくれたからこそと、つくづく幸せを感じています。

そして30年前、小浜大明先生、宮澤梅徑先生方が中心となり、従来の伝統書だけでなく、現代感覚の書を加えた長野県の書道展を発足しようと奔走され、書道評論家の田宮文平先生を特別審査員にお迎えして単独審査と銘打ち長野県現代書藝全国展が始まりました。私は初回から少字数書部門で参加しています。

10回展より文部科学大臣賞が認定され、21回展において幸運にも大字書「楚」にて文部科学大臣賞を頂くことができました。(田宮文平先生)き後は、特別審査員に、游墨社代表で書道評論家の太田文字先生をお迎えしています。

私は大字書作品を青墨(淡墨)にて発表しています。淡墨の滲みの美しさを出したいと思ひ、何種類かの青墨をブレンドしています。機械での磨りたての墨を、さらに粒子を細かくするために、手で磨っています。また、滲みに合わせ、宿墨も使用します。宿墨は何年も保存しています。墨と紙との相性もありますが、私は和紙より唐紙を使います。

筆は、疲れた筆では書かないように心掛け、書きやすい筆、同じ筆を2〜3本用意します。数枚書いては筆を替えています。美しい滲みを出せたかな?と思うと作品が全然良くなかったり、その逆もあってりでなかなか思う通りにはいかず、楽しさより苦しさの方が多い時もありました。でも、長野県現代書藝全国展で、田宮文平先生に認めて頂くことができた喜びは、また頑張ろうと意欲が沸いた出来事でした。書いている時間はほんのわずか数秒ですが、だからこそ集中できるし、書き終わった時に感ずる心地良さは格別です。

歳とともに段々と体が動かなくなりまして、それでも体力が続く限り仲間からの刺激を受けながら大字書を楽しまたいと思っています。書に対する情熱を失わず、今後も見えて頂いた人に何かを感じてもらえるような作品を書き続けたいと思っています。



第21回長野県現代書藝全国展「楚」

青柳明華書

部門で参加しています。

書道芸術院 令和の群像 (2025)



佐藤華炎

「ギフト」

彫刻家ブランクーシンの作品を見に、アイゾン美術館を訪れた。流線型の鳥、卵のような人の頭など、見たいと思っていた作品がかなり来ていたが、彼は抽象彫刻を作っているつもりはないという。鳥はその飛行を象^{たど}つたものだし、卵に見えてもあくまで人の頭の形をしている。

今年、母の七回忌を迎えたが、その死の直後は、たましいの形を卵に求め、何年もそれに拠った作品を制作した。それは死の

抽象化であり、作品にすることによって死の現実を昇華し、普遍性を求めるものだったと思う。卵というのは、生命の源であり、生命の象徴とも考えることができる。そうしたシンボルの持つイメージを借りて死と再生、魂の永遠性を表現しようと考えた。

日本語の詩や短歌は、より具体的なイメージを持って、暖かく私たちの心に迫る。斎藤茂吉の「死にたまふ母」は短歌の世界で母の死の普遍化に成功した作だが、私も母の死の直後は、茂吉の短歌を書くことで、死を悼む気持ちを具体化した。詩文書には叙情性は必須であり、可読性ある文字によって、鑑賞者の気持ちに寄りそうこと

ができる力がある。

翻^{ひるがへ}って、

前衛書の表現においては抽象性を突き詰める必要がある。しかし、私が制作の端緒としているものは文字である。記号としての文字には究極の抽象性がある。

たとえば漢字、アルファベット、ハンゲル文字など、まとまって意味のある言葉を作る文字群に拠りながら紙面を構成していく。漢詩にしても、英語の詩にしても、自分の心に響いたものや、様々な形で出会った言葉をいったん心に収め、再び取り出して、紙にのせていく。私の前衛書の制作方法は徐々にこのようなものになっていった。

言葉や文字は、書の成立に欠かせないものだが、私の「書表現」にとっても同様だ。たとえ可読性がなくても、根底に言葉がある。空間構成を考え、滲みや墨色が美しいものになるように努めるが、表現したいことがあって初めて作品は成立する。たとえ文字性があっても、全体が抽象度の高いものであれば、前衛書と言えはしないか。写真は2024年の書道芸術院展の出品作である。ある漢字作家の作品を見て、友との友情を表した内容に惹かれ、また、先輩書家の撰文の意図を汲み、表現したいと考えたものだ。私は、ずいぶんと大人になってから書道に入った。それゆえの、知識や技術の未熟さは自覚している。しかし、表現者として尊敬する師や、先輩、書友に恵まれたと思う。人生の危機にあっては人々や、書そのものに助けてもらった。これから先も、心に響くものや人と出会い、書から受け取るギフトを大事に、作品というハーベストを迎えられたらと思う。



第77回書道芸術院展「GO FORWARD」

佐藤華炎書

新 鋭 礼 讃

かな部 審査会員 熊谷 翔(埼玉県)



所属 書泉会 参加している書展
 師名 下谷洋子 毎日展
 書泉会展



「櫻」

奥山の風はさくらの聲ならむ

漢字部 審査会員候補 三浦 英樹(千葉県)



所属 白扇会(八街) 参加している書展
 大雲書道会 毎日展・白扇書道
 師名 辻元大雲 会展・千葉県展



「徐樂文詩」

鳥聲來和獨吟時

作品自評

作品制作において常に思うことは、疎密繁閑、潤濁、白と黒等、相反する要素をいかに盛り込むかということです。今回の作品も同様のことを念頭に置き制作しています。

以前、殿村藍田先生が、「かなの作品を書く際は、漢字の筆法を多分に取り入れるようにしている。」と述べている書籍を目にしました。この言葉には、大きな影響を受けており、制作活動の一つの指針となっています。

漢字の筆法を取り入れつつ、かならしさを表すことができるよう努力しましたが、2行目はやや強すぎたかもしれせん。

書活動における課題

臨書、書道史研究など、書芸術の根幹となる部分の勉強にかけられる時間が少ないことです。仕事を言い訳にせず、表現の根となる部分の勉強を充実させていきたいです。

今、伝えたいこと

「仮名」という伝統的な分野で、現代人の琴線に触れる作品を目指し悪戦苦闘の日々です。思うような作品を書けず、苦しいと感じることもあります。その苦しいと感じた時間が、将来の自分の糧になると信じて、書き続けるしかないと考えています。

作品自評

「鳥が来て我が独吟にあい和した」という文意から私が目標とする「調和」というテーマを感じこの漢詩を選びました。木簡は漢字研究部の課題に取り組んだことがきっかけで展覧会の作品制作に取り入れるようになりました。敦煌漢簡を参考にして様々な種類の筆に挑戦しましたが、最終的には珍筆で書いた作品になっています。鋭さと重厚さを混ぜながら全体的に存在感のある作品になってくれたらと思います。

書活動における課題

子育てや仕事に追われる中でいかに書道と向き合う時間を増やすかが日々の課題です。特に臨書をただ書くだけでなく、

今、伝えたいこと

書道教室を営む家の長男に生まれ、祖父・扇街、父、鄭街の元で育ちました。書道から離れた時期もありましたが、家族の他界や環境の変化もあり、6年前に家に戻る決断をしました。現在は父の仲介もあり、辻元大雲先生に師事しております。先生のご指導は細部にまで意識が向いており、これまでの捉え方の甘さを痛感しました。まだまだ実力不足で先生の求める水準には遠く及びませんが、厳しくも愛のある指導を頂き、貴重な時間に感謝する日々です。

書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

令和6年11月23日(土・祝)
於 上野精養軒

「日中二人の偉大な収蔵家の『集王聖教序』の名品」

講師 伊藤 滋 先生

〈公開講演会〉

後藤 大峰

本年の書道芸術院創立記念日講演会は、いつも月刊「書道芸術」の巻頭部分をお願い致しております。木鶏室、伊藤滋先生に「日中二人の偉大な収蔵家の『集王聖教序』の名品」と題して、先生、所蔵の膨大な資料の中から、ご提供頂き、会場の上野精養軒にて、その巧みなお話し方で、我々、役員、会員に分かりやすく、ご講義頂きました。

その中で、集王聖教序は1種類ではなく、その拓が取られた時代などにより、何種類も存在することに驚きを感じました。

その中には日本の有名な、三井高堅(ていひょうけん)(聴氷閣)が、登場して参ります。

それには、日本人としては、嬉しくもあり、誇らしくも感じましたが、会場に居られた、役員、会員の皆様、それぞれに、感じられたのではないのでしょうか。

また、その中で、文字、一文字、一文字、追って、見聞していくと微妙に

形態や太細に差異があり、筆者が初学の頃、盛んに臨書した当時、感じたこととの無い、細部にわたって集王聖教序の繊細さ素晴らしさを感じられました。

ひとつ、事、この「集王聖教序」を取り上げただけでもこれほど、色々なことが感じられるのです、改めて長い歴史の中で育まれた、中国書文化の奥深さ、膨大さを、感じ得た時間でした。

伊藤滋先生には、ご多忙の中、お時間を、お作り頂き、熱心に、ユーモアたっぷり、ご講義頂きましたこと、改めて、感謝申し上げます、この創立記念日講演会に相応しい、ご講義、ありがとうございます。

厚く御礼申し上げます。終章と致します。



公演風景



会場風景

書に関する人材育成事業・地方開催講演会

山陰支局・講師 小竹石雲先生

「詩文書に親しむ」

日時 令和6年10月27日(日)
会場 湯梨浜町中央公民館

報告者 名越蒼竹

山陰支局ではほぼ全員が漢字部に所属して一般的な公募展に詩文書を発表することは稀です。ただ全く書くことが無いかというと、部別を問われない小規模の書展では個人的に詩文書に挑戦することもあります。それぞれに試行錯誤しながらの制作ですから、きちんとした詩文書の考え方を理解できているかは不明でした。

ものの、皆真剣に小竹先生の作られた資料の解説に耳を傾け、模範揮毫の場面では食い入るようにその書き振りを凝視していました。

語り口は穏やかながら書に対しての情熱や真摯な姿勢が感じられ、模範揮毫では筆の性能をきちんと使い切る運筆の慎重さと技の広さに皆が引き込まれ、溜息を漏らすほどでした。

最後に参加者の感想の一部を紹介し、報告とします。

今回、書道芸術院の企画を利用して小竹石雲先生にお願いし、標記テーマで詩文書の考え方や基礎を学ぶ機会を得られたことは、山陰支局の会員はもとより一般愛好者にとって大変貴重な経験となりました。参加者は予定定員をオーバーし、少し窮屈な席となった

「筆で文字を書くことの楽しさを感じ、自分の好きな言葉を表現したいと思いはじめた書道でしたが、迷いながら自分の進む方向性が見いだせないまま過ぎてしまいました。今回の講習会で、

小竹先生に出会えたことで、書道への向き合い方が変わるきっかけになったような気がします。」

「臨書することの大切さを何度も強調され、自分は丁寧な古典を見て臨書をしていたのか？ もしかすると、古典の文字を書いただけで、丁寧な見取りをしないまま臨書をしていたのではないかと思いました。」



あいさつされる小竹石雲講師



講演会タイトル横断幕





支局長による講師紹介



後方からの会場風景



準備された講演会資料の解説



模範揮毫される小竹石雲講師



用筆運筆について、実演して解説

書道芸術・競書出品規定について

本誌の競書出品規定を56ページのように一新しました。部門について、現行にあわせて整理しました。大幅な変更ではありませんが、ご確認願います。

[改定点1] 規定部のほかに「自由部」を設けて、その中に「前衛書」「現代詩文書」「篆刻」「実用書」の各部門がはいるという形になります。したがって、規定部5部門、自由部4部門、研究部2部門、特別研究部（小品・大作）の4部体制となり、並行して審査会員の部が設定されていることとなります。

[改定点2] 「篆刻」部門のうち、摹刻について、従来は「原印自由」がありました。これを廃止し、「課題による語句」のみとします。本号（765号）より実施します。

[確認事項1] 令和5年4月から、月例競書の全部門について、本院審査会員も含めて、購読者であれば誰でも、どの部門にも出品できるようになっています。お間違いのないように願います。

[確認事項2] 「審査会員の部」は「漢字部門」と「かな部門」に設けています。本院審査会員であれば誰でも、どちらの部門にも出品できます。両方に出品することも可能です。ただし、自分の段級との重複出品はできません。

なお、バーコード出品券をお持ちでない方は事務所までご連絡ください。

バーコード出品券がないと出品はできませんのでご注意ください。

※予告…「篆刻部門」は3月号（767号）で募集を停止することになりました。

あらかじめご承知おきください。

古典鑑賞

476

金文① (鉄設)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題

Ⅱ (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ (A:大作の部 毎頁展覧会員・会員サイズ以内、2×6尺・金紙も可) 当該古典の左記掲載部分以外も可。
(B:小品の部 半切以上半切以内・金紙以内も可) (A・B縦目地)

〈解説〉今月から3回、金文を取り上げる。中国古代の青銅器に铸込まれた(刻された)文字を金文と言い、書体としては篆書に分類される。「鉄設」は西周晩期のもので、その内底に12行、144文字の文字が存在する。「鉄」とは西周第10代厲王(れい)のことで、王家の偉業を

たたえ、その継承と多福の願いが書かれている。金文はもともと紙に書いたものではないこともあり、臨書するには困難が伴うが、起筆・送筆・終筆に注目しながら是非、動画で確認していただきたい。楷書の筆法とは全く異なるので注意したい。(編集部)

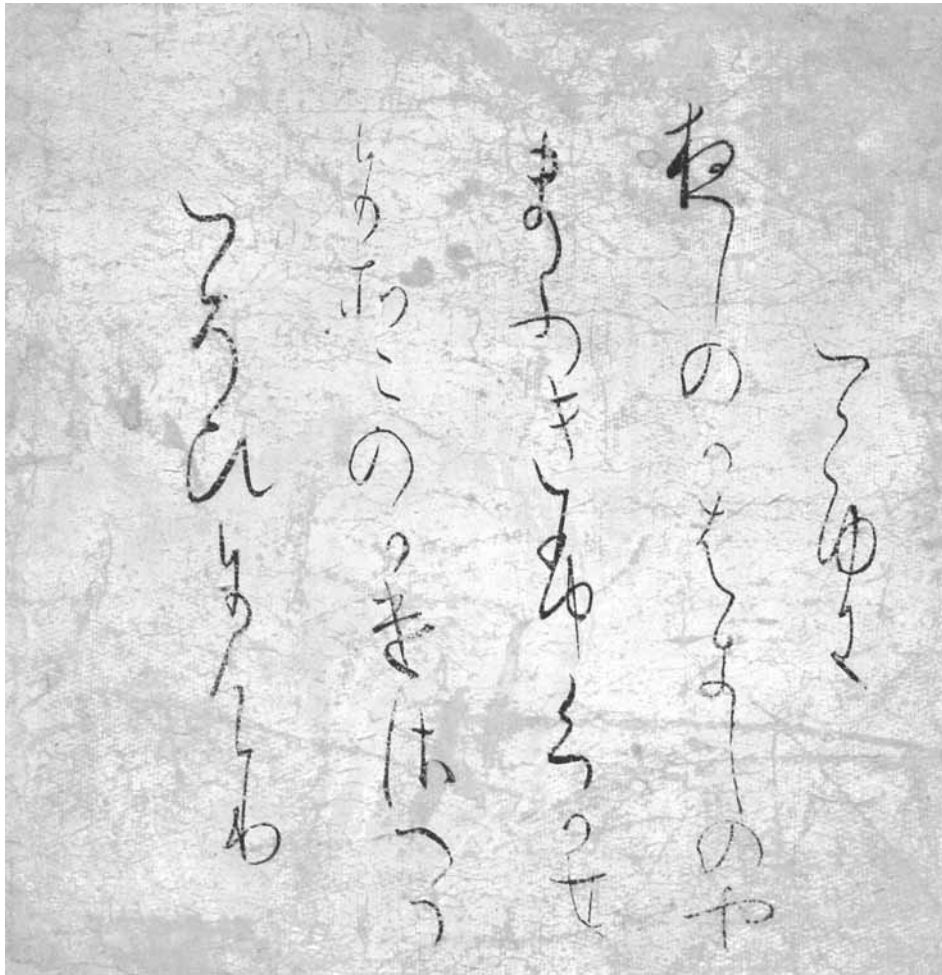


※掲載図版原寸、ただし行立てについては変更しています

用給保我家厥立鉄／身陲降余多福雷霰／宇慕遠鉄鉄其萬禾／簡實厥多御用稔壽

※57ページに骨書きがあります

(扶風県博物館蔵)



※古筆は原寸（以上も可）で臨書しましょう。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

（湯木美術館蔵）

※掲載図版原寸

〈よみ〉
 つらゆき
 よしのがはきし
 まぶきふくかぜ
 にそのかけさへう
 つろひにけり

〈解説〉「寸松庵」とは、京都の徳寺の境内に、佐久間將監実勝の発願によって、1621年に建立された小寺院である。

その頃、堺の南宗寺の襖に36枚の色紙が貼ってあったが、そのうちの12枚を実勝が手に入れ、帖仕立てにして愛蔵した。これが寸松庵に伝来したため、同筆のツレもあわせて「寸松庵色紙」と呼んでいる。

現在、43枚の存在が確認され、その全てが古今集の四季の歌である。もともとは冊子本の調度品として制作されたものであろう。その後、その多くは茶室に飾る茶掛としてひとつひとつ切り出され、珍重されることとなった。
 （編集部）

かな研究部臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）別紙を裁断して貼付も可。半懷紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

特別研究部臨書課題

A. 大作の部＝毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
 B. 小品の部＝半切 $\frac{1}{2}$ 以上、半切以内（縦横自由）、全紙 $\frac{1}{2}$ 以内も可
 <いずれも上記の掲載以外も可。>

漢字規定 初段以上 【2月14日締めきり】 用紙 半紙普通判

名越蒼竹選書



寒色 五陵松 よみ(寒色 五陵の松)

書体||自由

習い方解説 (1)

名越蒼竹

寒色五陵松

(寒色 五陵の松)

(李頎^{りき})

五陵あたりの松は、冬の緑の色を示す。

書において線質が重要であることは論を俟ちません。ただ線質は筆者の個性がその人の用筆・運筆を通して表れますから、その味わいは千差万別です。臨書は対象とする古典の用筆・運筆を学ぶことで鑑賞眼を高めつつ自身の個性を広げ磨くことができますが、創作の場合、線の味わいは人それぞれで良いわけですから「こうあるべき」と規定することはできません。そこで今月からの3ヶ月は行草書の場合の構成法に関して述べていこうと思います。

行草書の作品構成について、その魅力と難しさは部分の変化と全体の調和にあると言っただけでしよう。一つ一つの変化の内容が全体の調和にとって意味があること、これが優れた構成のポイントです。

漢字規定 秀級以下 【2月14日締めきり】 用紙 半紙普通判

田村鄭雲 選書



大道無門 よみ(大道に門無し)

書体Ⅱ楷書

習い方解説 (1)

田村鄭雲

大道無門

(大道に門無し)

(禅語)

悟りには決まった入口が無い。

大きな道には門がありません。なんでも、誰でも受け入れる懐ろの大きな人物を指すそうです。解釈はいくつもあります。それぞれの文字の持つ力を生かして表現できたらと思います。

今回から3回、担当することになりました。つたない作品ですが大道無門の精神でよろしく願います。

楷書の創作に当たり古典を参考にして格調高い作品を生み出したものです。今回は六朝時代の遅しい切れ味のある表現を目指しました。創作の際には造像記をそのまま集字しても妙味ある作品にはなりません。それぞれの古典を深く研究し会得した上で個性的な書として表現したいものです。

六朝時代に生きた人が書に求めたものは、慈愛に満ちながら、遅しく、厳しいものだと思います。参考手本はできるだけ軟弱にならないように、生命感溢れる書表現を狙いましたが、思い通りになりませんでした。

習い方解説 (1)

松村くに子

霞かすみますばまななをかか春はると思おもははまし
まだまだ雪消ゆきえぬえみ吉野よしのの山やま

(西行山家集)

もし霞がかかっていたいなかったらどうして春と思おうか。まだ、雪が残っている吉野山も霞んでいるから、春になったことが分かるのです。

かな作品の表現の一つに行間は重要です。今回の例ですが、後半に4行のかたまりを作りました。この場合、文字の大小、画数の多い字などを考慮しながら行間を考えます。「し」のような縦長に伸びる文字では、前の行に寄り添わせるのも良いでしょう。

4行が同じ墨色にならないよう配慮してください。少しの変化でも全体の表情は変わります。墨継ぎは「また」です。



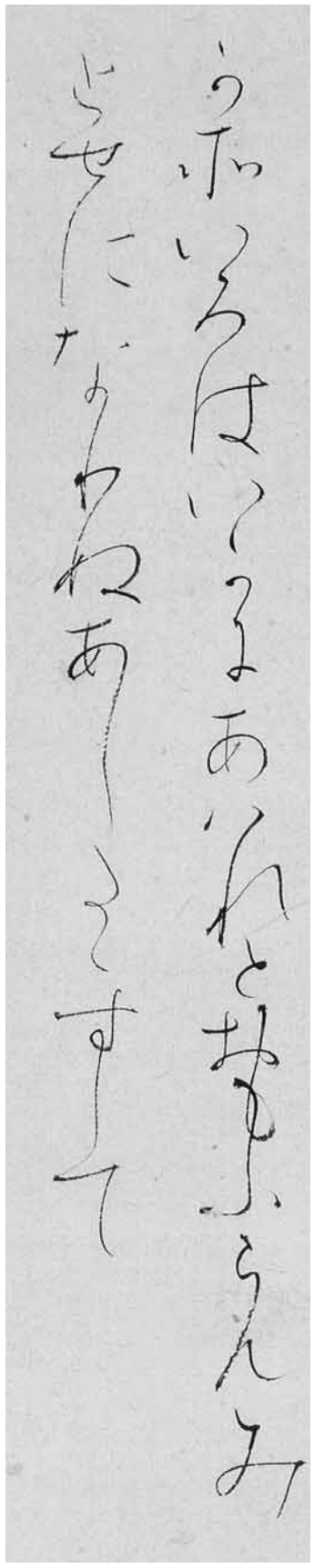
よみ方

霞かすみまますすばばななをかか春はると思おもははまし
ままだ(満みだだ)多た雪消ゆきえぬえみ吉野よしのの山やま(也や方ほう)

創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

かな規定 秀級以下 【2月14日締めきり】 用紙 半紙タテ1 $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)
 掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)



よみ方 かぞいろはいかにあはれとおもふらむ元み
 とせになりぬあしたくずして

歌意 父と母(イザナギ・イザナミ)はどんなにかわいそうに思ったことでしょう。3歳になっても足が立たず、捨てなければならなかった我が子の蛭子を。

かな条幅規定 【2月14日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

勝山初美選書



よみ方 あらたま(末)の年(登)し行(ゆ)き幾還(可)遍り春立た(多)ば(盤)
 ま(万)つわ(和)が(可)宿(やと)に(耳)うぐひす(鶯)は(盤)鳴(余)け(介)

創作

※タテ形式に限る

習い方解説 (1)

勝山初美

あらたまの年行き還り春立たば
 まづわが宿にうぐひすは鳴け
 (大伴家持「万葉集」)

年があらたまって、立春になったら、まずは私の家で、鶯よ鳴いてくれ、の意。

基本的な構成です。単調にならないよう、隣り合う文字の大小・漢字・かなの響き合いに留意し、連綿線やしで、自然な流れを表現しましょう。墨継ぎは「和」です。

漢字条幅規定 初段以上 【2月14日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲 選書



習い方解説 (1)

小竹石雲

条幅制作にあたっては、紙面の掌握が第一です。力の配分による文字の大小の変化、墨量の変化などが自然に行なわれることが大切です。書くうちに字形の工夫はおのずとできてきます。また行の揺れも同様です。

参考手本の書風については澄み渡った寒風を思い、伸びやかに清々しい生命感と凍とした空気感を表現したかった。

※タテ形式に限る

天寒胡雁出萬里 月落越鷄啼四更 (戴表元)

(天寒く胡雁万里を出で 月落ち越鷄四更に啼く)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【2月14日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

飯沼恵鳳 選書



飯沼恵鳳

習い方解説 (1)

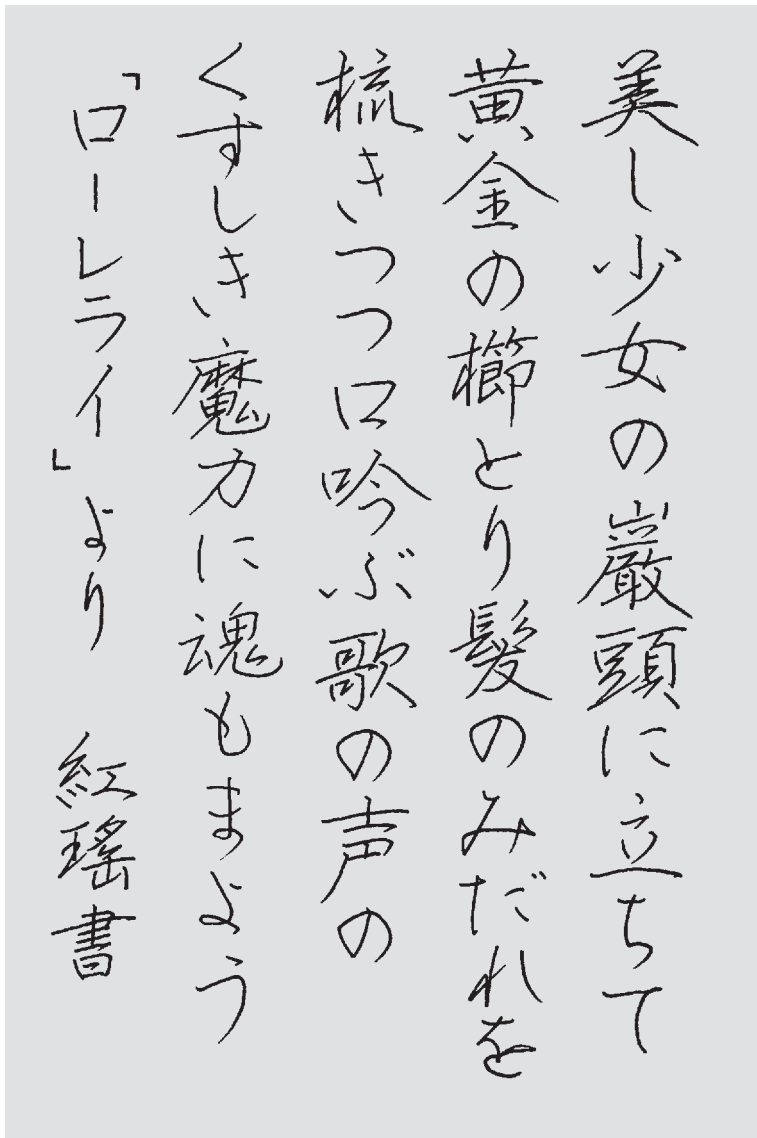
飯沼恵鳳

大意は「名言はいつの時代においても、古いものは新しいものに関係なく名言であり続ける」です。今月は5文字を一般的な行書で書いてみました。線に太細、潤濁を付け長鋒濃墨で遅速の変化を考慮し、重厚な線質で書きました。筆意、筆勢を心掛けて自由に個性を活かして書いてみましょう。

妙言無古今 (史記)

(妙言に古今無し)

書体||自由



書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

習い方解説 (1)

倉林紅瑤

BS朝日で「子供たちに残したい 美しい日本のうた」が放送されています。

「ローレライ」(H・ハイン作詞、近藤朔風訳詞、E・ジルヒャー作曲)は、もともとはドイツ西部のライン川にあるローレイ渓谷に語り継がれてきた伝説をもとにしたドイツの歌曲です。その美しさで男たちを惑わせたとして裁判にかけられたローレライはライン川に身を投げてしまいました。水の精となった彼女は岩の上から美しい歌声で通りかかる漁師を誘惑し、船もろとも水中に引き込んでしまいました。

この訳詞をしたのが近藤朔風(明治13年(大正4年)です。朔風は原詩に忠実に、かつ歌いやすい訳詞で西洋歌曲の普及に貢献しました。「野ばら」や「シューベルトの子守歌」なども朔風による訳詞です。「ローレライ」を聴くと情緒豊かなメロディーが心に染みわたります。

参考手本の漢字は行書で、平がなは平安時代の古筆「高野切第三種」や「粘葉本和漢朗詠集」などの基本形を基に書きました。

美しく少女の巖頭に立ちて
黄金の櫛とり髪のみだれを
梳きつつ口吟ぶ歌の声の
くすしき魔力に魂もまよう

「ローレライ」より ○○書

季節の言葉・七十二候より

立春第一候 東風凍こもりを解く

雨水第一候 獺かわうそ魚を祭る

啓蟄第一候 桃始めて華はなさく

春分第二候 雷乃ち声を発す

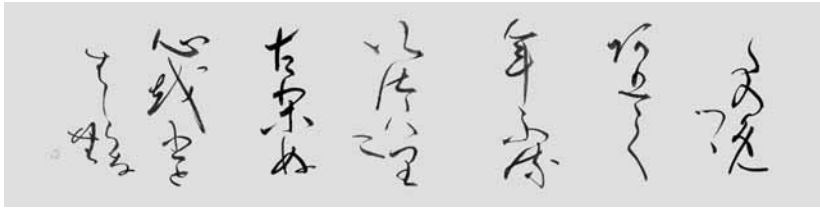
広瀬舟雲

(掲載手本85%に縮小)

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る

季節の言葉・七十二候より／立春第一候 東風凍こもりを解く／雨水第一候 獺かわうそ魚を祭る
啓蟄第一候 桃始めて華はなさく／春分第二候 雷乃ち声を発す／氏名

書体||自由



かな条幅部 五段 星野 栄花
横形式に1首としては、線の太細・弾力が的確。リズムも歯切れよく、潤濁が残念でしたが頼もしい。

◎かな条幅部総評 今回は書きにくかったのか、細すぎたりバランスに欠けた作が多かった。かな大字の用紙もよく吟味したい。(洋子評)

かな部 師範 梅津佳代子
温雅で品格の高い落ちついた作。余白の美しさ、墨量の変化に加えて線にすっきりとした清涼感がある。
◎かな部総評 俳句の作品として余白を考慮した作品が多く好感を持っていた。雪の雨冠は一般的な形を使用しましょう。(峰子評)



漢字条幅部 師範 草刈 眞華
鐘籛風の楷書。温雅な線と安定感のある字形。余白も十分。心静かで穏和な心持ちが感じられる。

◎漢字条幅部総評 上級は横形式に様々な構成で工夫された意欲的な作が見られた。「廬」字に不明確な作が目についた。(萬城評)



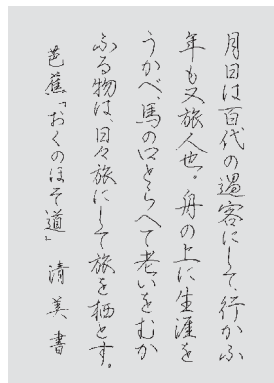
現代詩文書部 特選 新井 藤雪
気迫の籠った運筆。大小・太細潤濁の変化に富み、強靱な線が余白に響き渡る。落款の位置も見事。
◎現代詩文書部総評 素材の選択が大事。自分の思想を持って取組んで欲しい。(恵鳳評)



漢字部 師範 井上 洋硯
空間を大きく捉えた筆線が、大きく陰陽を孕み、悠遠な作に仕上がる。澄明さを楽しませてくれる。
◎漢字部総評 多種多様な表現にチャレンジした姿勢にエールを送りたい反面、もっと書き込んで光彩を放つ作を見たい。(石雲評)



前衛書部 特選 庄司 紫千
余韻ひびくシャープな線、骨力ある筆致、明快で心地よい表現。魅力あり。
◎前衛書部総評 楽しく書く中に、もっと大胆な表現に挑戦してもらいたい。(仙岳評)



ペン字部 師範 宮前 清美
文字の大小、特に平がなの広狭による行間の響き合いが魅力的。最後まで統一性を保つ優美な作品。
◎ペン字部総評 上級者は安定した作が多かった。多書する事で字間行間も自然な配置になる。全体感も大切な要素です。(雪枝評)

实用書優秀作品

選評 長島 傳 雨

喪中につき新年のご挨拶を
失礼させていただきました。
生前に賜りましたご厚情に深謝致
すとともに皆様のご多幸をお祈り
申し上げます。
令和六年十一月
宮前 清美

特選 宮前 清美

細い線できれいに丁寧に書かれ、
縦の流れが淀みなくすばらしい作。

喪中につき新年のご挨拶を
失礼させていただきました。
生前に賜りましたご厚情に深謝致
すとともに皆様のご多幸をお祈り
申し上げます。
令和六年十一月
中原 純子

特選 中原 純子

最後まで一貫した流れと統一感、
メリハリがあり安心できる作。

◎实用書部総評

実用的なものを書くにあたっては自分の字が現れます。当然書き癖も現れ
ます。その癖を修正すべく日々研鑽していきましょう。
(傳雨評)

深大	一貫	正華	生大	上里	池田	浅野	弘美	宗苑	水荃	中野	利守	柳明	絢水	玉州	大雲	四枝	大友	紅華	夕波	八街	福澤	由紀	小樹	華仙	幸扇	華山	柳瀬	瑠華	幸仙	山本	梅香	華楓	渡邊	博士	
久下	木村	加瀬	大田	太澤	池田	浅野	弘美	宗苑	水荃	中野	利守	柳明	絢水	玉州	大雲	四枝	大友	紅華	夕波	八街	福澤	由紀	小樹	華仙	幸扇	華山	柳瀬	瑠華	幸仙	山本	梅香	華楓	渡邊	博士	
香奈	関美	明日	良子	よし	俊美	弘美	弘美	宗苑	水荃	中野	利守	柳明	絢水	玉州	大雲	四枝	大友	紅華	夕波	八街	福澤	由紀	小樹	華仙	幸扇	華山	柳瀬	瑠華	幸仙	山本	梅香	華楓	渡邊	博士	
書泉	梓江	春光	芳蘭	華陽	東向	玉川	菅野	神田	角張	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友	大友
佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
泰子	祥扇	木豊	保衛	宏子	加奈子	芳蘭	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓	美楓

前衛書部 (特選)

現代詩文書部 (特選)



涌翠 滲み利用した作品良し
 和香 宿墨と飛沫印象に残る作
 洙紅 切れ味のある明快な表現
 みえ子 巧みな筆の回転素晴らしい
 蛭江 直、曲線の真剣勝負、良作
 有津 力強い線質運腕大良作
 梨秀 細線と黒点バランス見事
 壱山 淡墨の旋律楽しい表現
 美紀 鋭く紙面を切り迫力満点
 惠津子 平面の構成安定感あり
 選評 大石仙岳

景燁 懐ろの広さ抜群余白活きる
 一琴 潤濁豊富温雅な線広がる
 蘭花 てらい無い運筆好感度大
 千華 自然な流れ純朴さ漂う
 紅霞 何とも言えぬ「風」の表情
 聲香 直線的な運筆で線動的
 睦月 空間処理成功、線多彩
 彩香 強弱付いた線が律動的
 菜圓 宇宙まで届くか構成見事
 萌佳 魂の籠る線が余白に響く
 選評 飯沼恵鳳

真理 多彩な線質躍動感漲る
 洋硯 氣宇雄大穂先の開閉見事
 壱山 正面切る運筆線動い
 雅邦 余白を活かす構成が流石
 華舟 運腕大、多彩な線質漲る
 閑美 诗情豊かで律動感迸る
 彩苑 運筆自由奔放、開放感漂う
 藤谷 強靱な線紙面引き締める
 紅雨 ひらがなの存在感見事
 永舟 叙情的で味わい深い作
 選評 飯沼恵鳳

今月の

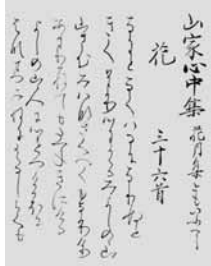
特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 山口仙草 田村鄭雲

小品の部

部分拡大

臨書 (若葉) 工藤山房 「山家心中集」



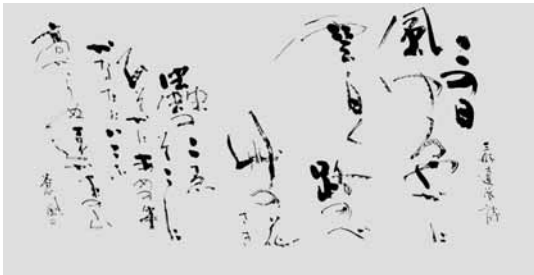
工藤山房臨

35×122cm

◆かなの臨書の学書法も色々あるが、この作品は原本をやや拡大し紙質も異なるが線の切れ味を追った。息長く喰い込む穂先の生彩感に惹かれた。
(洋子評)

前衛書 (秀水會) 坂井初江 「祈」

現代詩文書 (蒼風) 笹木蒼風 「三好達治詩」



笹木蒼風書

35×68cm

◆墨量の変化充分で余白も工夫され興行きのある作品。線質も多様で楽しい。大胆にあけた余白も違和感はない。字形にあと一步の風格が欲しい。
(鄭雲評)



坂井初江書

135×35cm

◆淡墨作品で、上下に流れよく落ち着いた作となっている。上部にもう少しボリュームを持たせると全体的に安定した作となる。
(仙草評)



臨書 (素書) 坂本芳博 「争坐位文稿」

坂本芳博臨

135×35cm

◆筆圧が強く、重厚感に溢れる線が目を惹く。気迫が込められた臨書。心と技が一体化した完成度の高い臨書作品です。
(萬城評)

総出品点数 78点

〈小品の部〉

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

麗澤長谷川翠

伊呂鈴木英晴

宗苑茂木絢水

四枝伊藤 四夏

青蓮山崎 藤 恵

もく西川 藤 象

一弦渋谷 苺江

大雲 藤井 花香

〔前衛〕

大拙 佐藤みえ子

紅瑠 松本 秀泉

〔臨書の部〕

大雲 神谷 雲脚

やま 白鳥 眞智子

菁湖 北嶋 菁湖

華祥 青木 藤 漣

紅瑠 小泉 藤 潤

八街 三浦 小 樹

堂光 佐野 光 堂

生大 吉原 光 進

蓮紅 千葉 華 紅

創作の部(38点)

漢字 7点

かな 4点

現代 19点

篆刻 0点

前衛 8点

臨書の部(40点)

漢字 35点

かな 5点

大作の部

前衛書

(容洲社)

阿部 邑里

「ひとときの」



阿部 邑里 書

79×181cm

◆紙面全体に渴筆の墨のうねりのような動きが躍動感を醸し出しスケールの大きな見事な作となっている。

(仙草評)

現代詩文書

(四枝社)

奥川 麗流 「燃糸島(渋沢孝輔の詩)」



奥川 麗流 書

69.5×136cm

◆渴線の変化を強調し作品に趣を加味している。運筆も細部まで慎重で好感が持てる。作品構成は単調に感じられるのが惜しい。

(鄭雲評)

臨書 (大雲)

舟寶 恵美

「争坐位文稿」



舟寶 恵美 臨

135×70cm

◆筆の弾力を生かして、筆勢のある線が魅力的な臨書。大字ならではの作。「挫」字の傍の点は一つ多いが気迫に溢れた佳作。

(萬城評)

前衛書

(白珠)

石澤 徳蓮 「動」



石澤 徳蓮 書

89×89cm

◆超濃墨の作品で、墨の塊から弾き出て、下部の渴筆で大きな拡がり展開された。雄大で力強く好感が持てる作となった。(仙草評)

〈大作の部〉

創作の部(30点)

漢字—3点

かな—3点

現代—8点

前衛—16点

臨書の部(7点)

漢字—7点

かな—0点

総出品点数

37点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

創珠 阿部 珠翠

もく 森田 藤谷

〔かな〕

水茎 清水 蘭舟

〔現代詩〕

翠柳 加藤 紫翠

玄穹 尾形 紅霞

四枝 大友 四峰

〔前衛〕

遠藤 和香

紅瑤 川田 弘子

月華 相馬 朱郷

月華 浅野 玉翠

篤信 三浦 朱鳳

〔臨書の部〕

〔漢字〕

遊山 紺野 遊山

紅瑤 相澤 敦子

澄春 新行 内芳蘭

英峰 佐藤 桂香

漢字研究部
(争坐位文稿)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



中嶋 澪

漢字研究部 特選 中嶋 澪

運腕大きく、気宇大にして伸びやかで明快な秀作です。その上、線沈着して深く、落着きがあり顔真卿の書風が大いに感じとれます。特に「一」の字の用筆が正に顔真卿の筆法を熟知して書かれていることに感心しました。

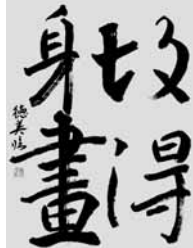
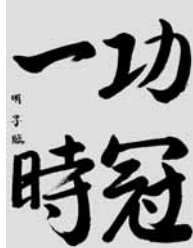
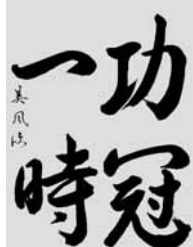
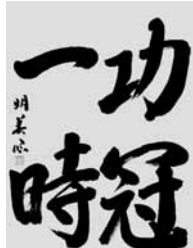
◎漢字研究部総評

全体的に見事な作が多く見られました。また、結体、用筆ともに原帖をよく観察して書

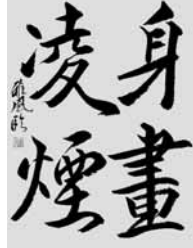
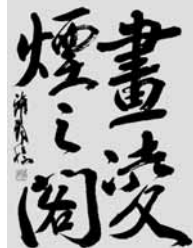
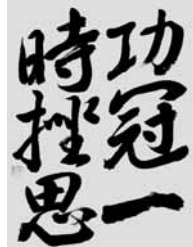
かれた作も多く見られたことを嬉しく思いますが拝見しました。反面、残念に思ったことは、墨量が少なく深味のない作や、文字が大きすぎて余白がほとんどない作などがあったことです。その他、小さな字で追加されている文字をそのまま書かれた作も少なからずありましたが、臨書する時にはその文字を拡大して書くことも必要だと思います。



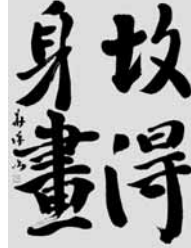
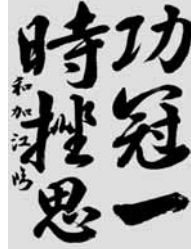
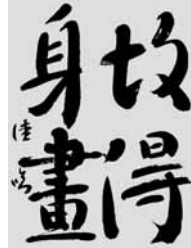
高知 恵萩 漢叙
功子 萩芳 翠孝



篁翠 徳明 ひ明
葵嶺 美子 る美



雅天 玉雅 美邑
風翔 翠邦 絢里



華和 佳宏 二千 裕
加 江波 子翔 子

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字26点・かな11点)

選評 小竹石雲・平川峰子
漢字秀逸作



鈴木 英晴



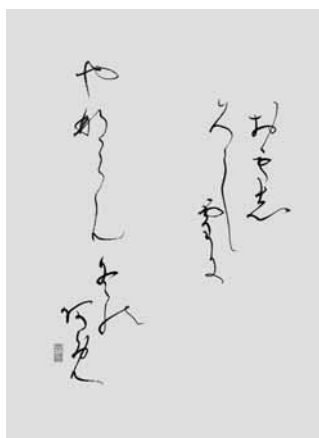
青木 藤漣



藤井 龍仙



柿沼 彩香



鈴木 英晴



新行内芳蘭

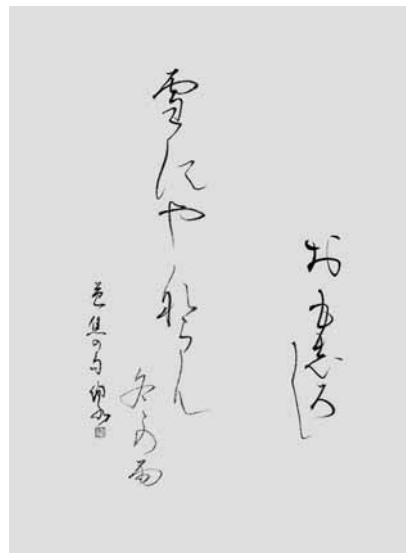
〈次点・50音順〉

板橋雅邦



羊毛筆に濃墨を適度に配し、余裕ある筆致で紙面を自在に駆ける。強弱、大小の変化をつけながら線の方向にも配慮がなされた筆捌きは圧巻である。
(石雲評)

かな秀逸作



茂木 絢水

余白の美しさを考慮した構成にまず魅かれ、リズムの変化による線質の強弱は日頃の鍛錬の賜物にほかならない。一句を一気に書き上げ落款で潤筆は見事。
(峰子評)

令和6年11月23日、第3回通常理事
会が、上野精養軒にて開催。概要報告。

審議事項

1)第78回書道芸術院展、第76回全国学
生書道展について
会期は、令和7年2月5日(水)～
2月11日(火・祝)まで東京都美術館
会場で開催する。

①研究会、表彰式(学生展、院展)、
祝賀会について
全国学生書道展では、学生展の
会場で2月8日に大賞受賞者によ
る席上揮毫、2月9日にワークショッ
プを開催する。2月8日(土)には
上野精養軒で13時より全国学生書
道展の表彰式、15時30分から書道
芸術院展の表彰式を開催する。

今回より院展の大賞準大賞受賞
者による席上揮毫会を2月9日に
実施する。作品解説会については、
2月9日(火)午前11時から前衛書
展出品作家の作品解説会を、14時
からは各部一般無鑑査の作品解説
会を都美術館の会場で行う。2月
11日(火・祝)には10時00分から従
来通り役員による作品解説会を第
1室で開催することが決定された。

②第76回全国学生書道展について
令和6年10月30日から4日まで
審査が行われた。団体表彰、半紙
の部、半切の部の入賞者が決定
された。半紙の部では147団体、出
品点数98点(497人)、半切の部
では101団体、出品点数88点(380人)
の応募があった。半紙の部は700点
ほど減になった。半切の部の出
品点数は100点ほど増であった。

人事について(昇格移籍、退会等)
6月の理事会以降の昇格者、復
帰者、退会者について報告。
審査会員昇格者
新井春麗(漢字部)
木暮美紀(前衛書部)
西條松雲(前衛書部)
竹内成美(前衛書部)
田村紅沙(前衛書部)
復帰者3名で、退会者25名、ご
逝去者が4名の報告があり承認さ
れた。

令和7年度単位認定講習会について
令和7年度は以前の形式で2日間
での講習会とする。宿泊については
受講者が各自で取っていただくこと
にする。南関東総局の種谷萬城が主
管する。
日時 令和7年8月23日(土)
24日(日)
場所 ホテルポートプラザちば
千葉県千葉市中央区千葉港8-15
講師 ホテリポトプラザちば
(漢字) 名越蒼竹
(かな) 下谷洋子
(現代詩文書) 小竹石雲
(篆刻刻字) 後藤大峰
(前衛書) 千葉蒼玄
(原拓書道史) 種谷萬城
(一般教養) 地元講師(交渉中)
(書道芸術院の書) 下谷洋子
南関東総局のあと、次年度は山陰
支局での講習会を実施予定。

報告事項
1)第78回書道芸術院展評論家の眼につ
いて
第78回書道芸術院展「評論家の眼」
は、大東文化大学教授高橋利郎先生
と、創玄書道会会長の室井玄聳先生
のお二人にお願いする。

2)秋季展について
①秋季展について
10月7日(日)までセントラルミュー
ジウム銀座を会場に財団役員及び
秋季菊花賞、秋季俊英賞の計117点
の作品を展示した。12日には表彰
式、研究会が開催され、選考委員
の先生方の講評を頂き有意義な時
間となった。また、出品者の懇親
会も実施し盛況であった。来場者
1071人。
②書道芸術院前衛書作家展について
アートサロン毎日では、書道芸術
院前衛書作家展が開催され、22名
の新進気鋭の作家が意欲作を発表
した。トークショーを開催する。
来場者565人。
3)企画委員会について
書道芸術院の将来の発展に向けて、
部門、全国の総支局の若い方々の意
見も取り入れ、更なる活性化を図る
べく、委員会を設置している。秋季
展開催中の10月11日(金)フェニックス
プラザ3階会議室で企画委員会が
開催され、各総局支局の状況につ
いて意見が交わされた。本年も学生展
会場でのワークショップを企画委員
会委員でお手伝いすることで決定
した。
4)書道芸術院単位認定講習会実施報告
①岡山会場 山陽支局主管
日時：令和6年8月18日(日)
場所：倉敷市環境交流スクエア
水島愛あいサロン
受講者数98名
②東京会場 事務局主管
日時：令和6年10月20日(日)
場所：東京文具共和会館
受講者数65名
◎講師・講義内容(2回とも同内容)
かな・下谷洋子

「かなの基礎と古筆の見方」
漢字・種谷萬城
「楷書の学習」
現代詩文書・小竹石雲
「一新新さを求めて―古
典に学ぶ表現の工夫(蘭
亭序・米芾・虹縣詩巻)」
書道芸術院の歴史・下谷洋子
篆刻・刻字・後藤大峰
前衛書・千葉蒼玄

①教則本の進捗状況について報告が
あり、歴代の先生の作品等も掲載
予定なので、お手元にある方は、
院に協力してほしい旨依頼があっ
た。
②海外展についてベルギーにて開催
予定で、その内容について報告が
あった。
6)代表理事、業務執行理事の職務の執
行状況の報告
最初に下谷洋子理事長より第76回
毎日書道展の三役について
実行委員長：下谷洋子
審査部長：山中翠谷
総務部長：千葉蒼玄
運営委員はほぼ決定しており、12
月中には当番審査員と各部委員が決
定する予定である等、毎日書道会関
係の予定について報告があった。
以上の通り代表理事、業務執行理
事の職務の執行状況の報告があった。
その他
1)香川倫子先生お別れの会の収支報告
があった。
2)事務局より書道芸術院の令和7年の
年間計画について説明があった。
以上第3回通常理事会の報告といた
します。

48

令和7年 (公財) 書道芸術院 年間行事予定表

月	日	芸術院行事	日	展覧会関係	
		内 容		内 容	場 所
1月	6	仕事始め	4～9	現代の書新春展	セイコーハウス銀座ホール (旧和光ホール)
	17	第78回展審査会員・審査会員候補(書類搬入)			
	27	第78回展審査会員・審査会員候補(作品搬入)	4～9	現代の書新春展100人展	セントラルミュージアム銀座
	28	大賞選考			
	29	春華賞選考			
2月	4	第78回書道芸術院展陳列、評論家の眼、記者会見	27～3/3	第56回現代女流書100人展	日本橋高島屋
	5～11	第78回書道芸術院展			
	5～11	第76回全国学生書道展			
3月	22	通常理事会			
4月					
5月	11	監査・通常理事会(院事務所)		第76回毎日書道展 会友公募受付搬入	毎日ホール
			23～25	第76回毎日書道展鑑別	国立新美術館
6月	7	定時評議員会			
	22	通常理事会(院事務所)			
	22	第79回書道芸術院展運営委員会、実行委員会	26	第76回毎日書道展対策委員会	国立新美術館
			27～29	第76回毎日書道展審査	国立新美術館
7月	1	学生展要項発送	2	第76回毎日書道展会員賞選考	国立新美術館
			3	第76回毎日書道展大臣賞選考	国立新美術館
			7/9～8/3	第76回毎日書道展	国立新美術館/東京都美術館
	20	第76回毎日書道展書道芸術院祝賀会	20	第76回毎日書道展表彰式	ザ・プリンスパークタワー東京
	31	秋季展締切			
8月	6	秋季展下見会			
	9～14	夏季休暇			
	23～24	単位認定講習会(千葉県)			
	21	秋季展審査			
9月					
10月	6	秋季展陳列			
	7～12	秋季展			
	11	秋季展表彰式、研究会			
	12	秋季展撤回			
	20	第77回全国学生書道展作品搬入			
	10/29～11/3	第77回全国学生書道展審査			
11月	20	第79回書道芸術院展(一般/無鑑査)締切			
	23	創立記念日			
		通常理事会10時30分～			
		講演会13時30分～			
12月	6～7	第79回書道芸術院展審査			
	26	仕事納め			

〔特別昇段級試験臨書課題〕

※下記の写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。

孔子廟堂碑 (楷書)

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

△95%縮小▽



楚詩盛於六義。沛易明於九師。多士伏膺。

蘇慈墓誌銘 (楷書)

漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

△原寸大▽



問罪漳鄴。發西山制勝之衆。挫東嬴乞活之軍。一鼓而窮巢穴。三駟而

かな部の臨書課題は2月号に掲載します



授廣州長史。悅近／來遠。變輕諄於雕／題。伐叛懷柔。漸淳／化於緩耳。蜀王地

〈ご注意〉臨書作品は50～53ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数を臨書して下さい。

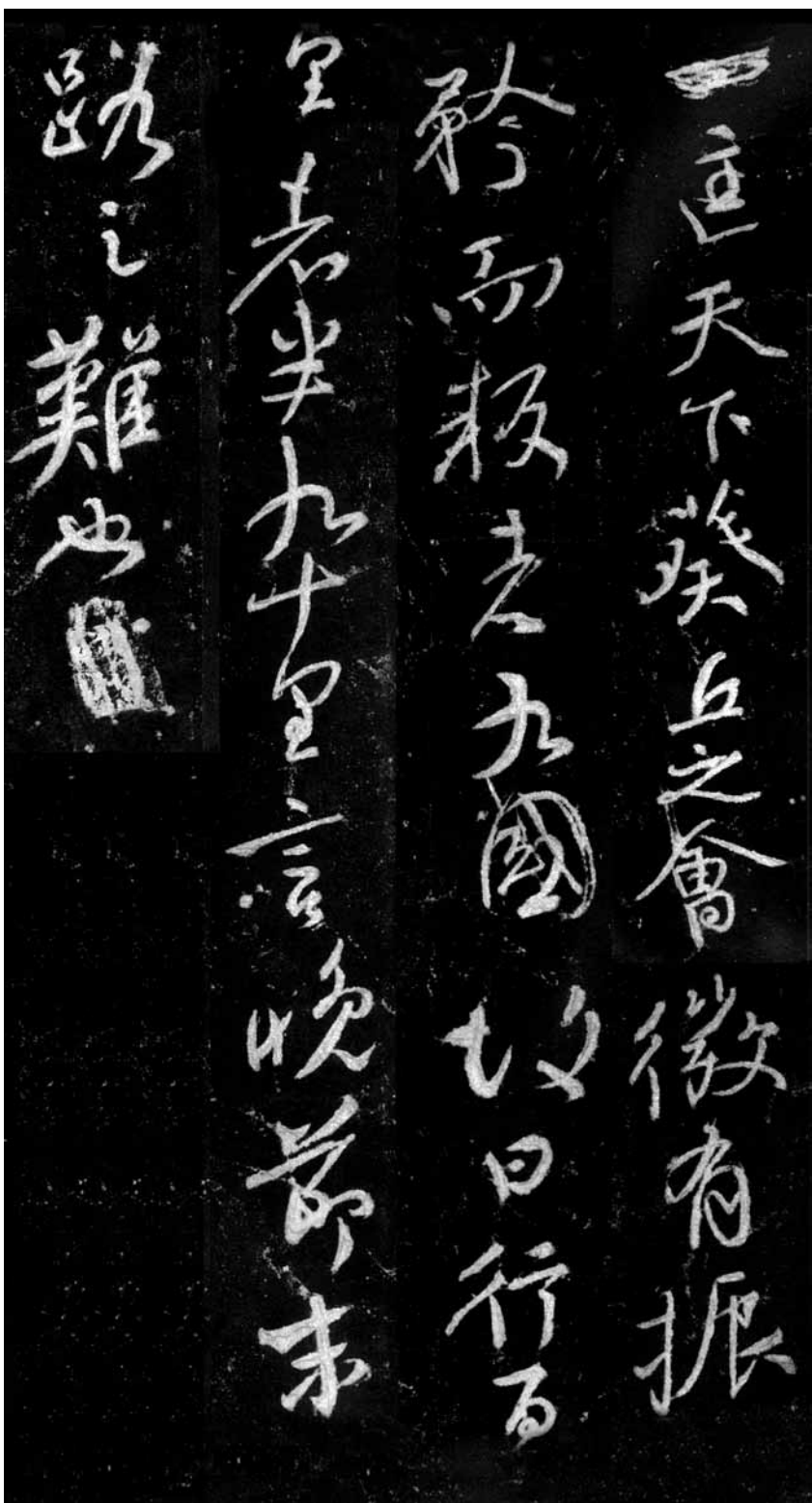
争座位文稿 (行書)

漢字条幅部

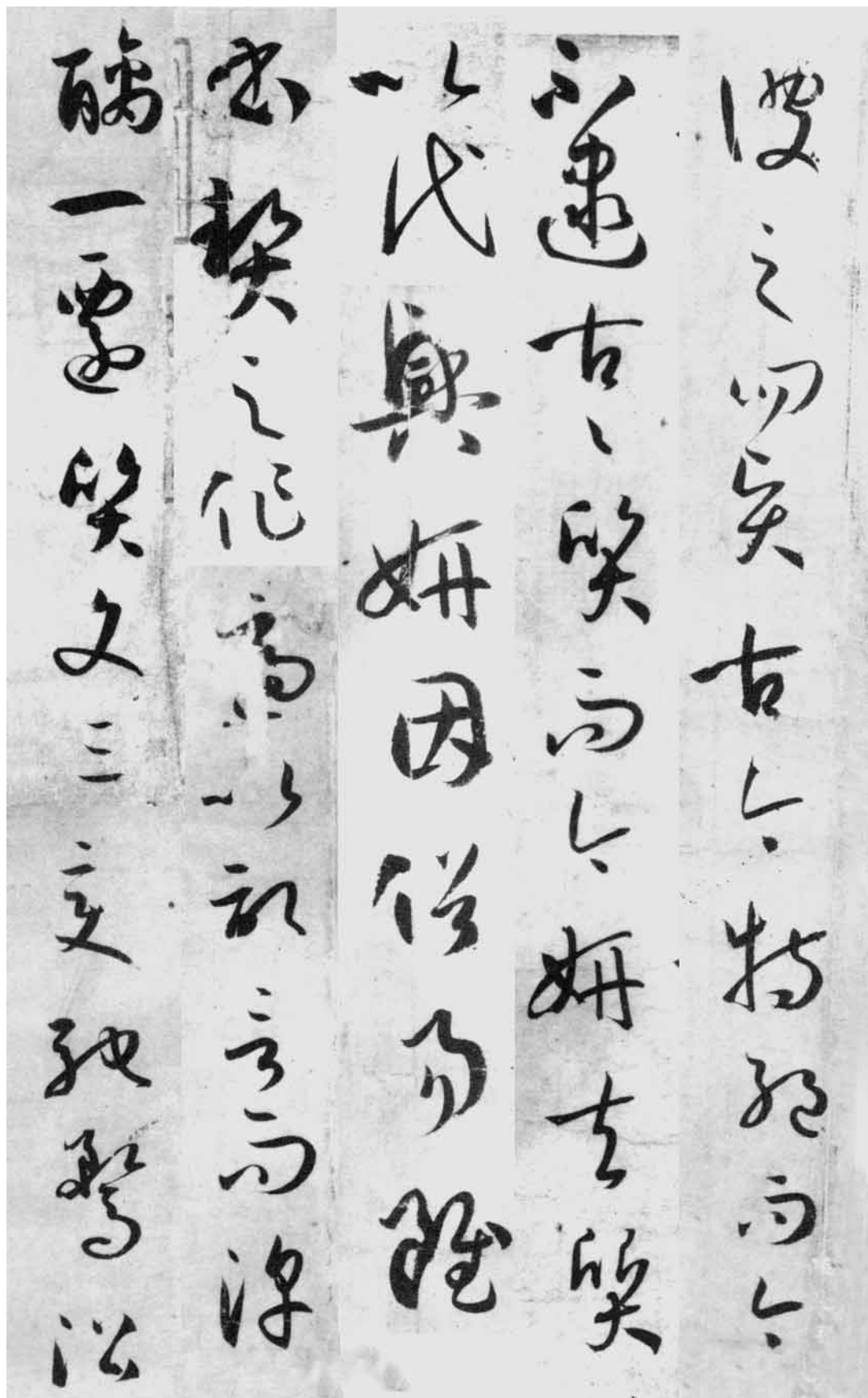
第三種

半切に写真掲載の中から20文字を臨書

△原寸大▽



一匡天下。葵丘之會。微有振矜。而叛者九國。故曰。行百里者半九十里。言
 晚節末路之難也。



彼之四賢。古今特絕。而今不逮古。古質而今妍。夫質以代興。妍因俗易。雖書契之作。適以記言。而淳醜一遷。質文三變。馳騫沿

第78回書道芸術院展

併催＝第76回全国学生書道展

- 会 期**：令和7年2月5日(水)～11日(火・祝)
9：30～17：30 (入場は30分前まで) ※11日(火・祝)は14：00閉室
- 会 場**：東京都美術館 (上野公園内)
〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36 TEL 03-3823-6921(代表)
- 主 催**：公益財団法人 書道芸術院
- 後 援**：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
一般財団法人 毎日書道会

《表 彰 式》令和7年2月8日(土) 15：30～ (受付15：00～)
上野精養軒

《祝 賀 会》令和7年2月8日(土) 17：30～ 上野精養軒

《作品解説会》東京都美術館展示会場

- ・令和7年2月9日(日) 11：00～ 秋季展前衛書展出品作家研究会
14：00～ 各部作品研究会
- ・令和7年2月11日(火・祝) 10：00～ 作品研究会

第76回全国学生書道展

・全国学生書道展指導者作品展示

- 会 期**：令和7年2月5日(水)～11日(火・祝)
9：30～17：30 (入場は30分前まで) ※11日(火・祝)は14：00閉室
- 会 場**：東京都美術館 (上野公園内) 学生展展示2階 第2展示室
〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36 TEL 03-3823-6921(代表)
- 主 催**：公益財団法人 書道芸術院
- 後 援**：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
一般財団法人 毎日書道会・毎日小学生新聞
- 《席上揮毫会》令和7年2月8日(土) 10：00～
学生展展示会場
- 《表 彰 式》令和7年2月8日(土) 13：00～ (受付12：00～)
上野精養軒
- 《ワ-クショップ》令和7年2月9日(日) 13：00～
学生展展示会場

現代書道水莖会展2025

令和7年1月29日(水)~2月2日(日)

10:00~18:00(最終日は16:00)

入場無料

廿日市役所

はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ

併設

はつかいち美術ギャラリー

廿日市下平良1丁目11番1号

後援

公益財団法人 書道芸術院

問合せは

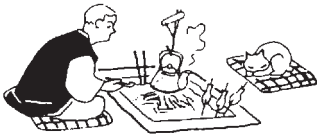
粋仙会藤井 070-4308-2861 まで

〒731-0103

広島市安佐南区緑井4-23-11



併設水莖会会員合同社中展



心に文学
手に筆を

第73回 和光展

●高覧下さいませよう

●ご案内申し上げます

●日時 令和七年

一月十一日(土)~十三日(月・祝)
十時~十七時

(最終日は十六時まで)

●会場 コスメイト行橋 一階

一般の部 多目的ギャラリー

児童生徒の部(半紙) ロビー

●揮毫会

一月十二日(日)十三時~ ロビー

顔真卿臨書から現代文書へ

主催 和光塾

共催 行橋市文化協会

後援 行橋市教育委員会

荻田町教育委員会

みやこ町教育委員会

(公財)行橋市文化振興公社

(公財)書道芸術院

毎日新聞社 西日本新聞社

事務局

〒724-0003 行橋市大橋一丁目十二

高田 幽玄

電話〇九三〇(22)〇四六八

競書出品規定

●規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款(印のみも可)を入れる。

●規定部(自分の段・級で出品)

部門	字	漢	な	か	漢字条幅	かな条幅	ペン字
段級位用紙	初段以上 半紙	秀級以下 半紙	初段以上 半紙	秀級以下 半紙	初段以上 半切	秀級以下 半切	師一級 はがき サイズ
書体・内容	創作(楷書)	創作(楷書)	創作	臨書	創作(書体自由)	創作(書体自由)	書体自由

●かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●自由部(段、級によらないもの)

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現勢書	半紙	創作
篆刻	左記	篆刻または創作
実用書	左記	掲載語句を書く

△篆刻部門・出品規定

- ① 篆刻：課題語句を原寸で制作
- ② 創作：語句は自由

八分印(2.3cm)以内
長方形、変形印は2.5cmを超えないこと
朱文・白文自由

○市販の印箋または半紙横1/2の大きさに切ったものを使用。

○摹刻と創作の両方に出品することはできない。どちらかを選ぶ。

△実用書部門・出品規定

- 用紙 半紙横1/2(24.5×16.5cm)、B5コピー用紙(26×18.1cm)も可。
- 課題 掲載語句を書く。
- 小筆、筆ペン、サインペンも可。

●研究部(掲載課題の臨書)

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌一首以上を書く、全文も可

- 掲載部分以外の箇所は不可。
- かな研究部門は料紙使用可。
- 料紙貼りつけも可。

☆審査委員の部について

- 審査委員は競書に準じて「漢字部門初段以上」「かな部門初段以上」に出品できる。
- 「審査委員」と記入する。
- バーコード出品券の段級欄に「審査委員」と記入する。
- 通常の競書との重複出品は不可。

●特別研究部(左記のどれかに1点出品する)

特別研究作品				作品サイズ	内容
小品の部		大作の部			
臨書	創作	臨書	創作		
	1. 小画仙半切以内、半切1/2以上 2. 全紙1/2(約68×68cm)以内も可 (縦横自由)	1. 136cm×8cm(2尺) 2. 121cm×6cm(2尺) 3. 117cm×5.8cm(2尺) 4. 112cm×4.5cm(2尺) 5. 106cm×3.5cm(2尺) 6. その他 毎日展一般公募サイズ・全紙も可	1. 242cm×61cm(2尺) 2. 182cm×79cm(2尺) 3. 176cm×85cm(2尺) 4. 171cm×85cm(2尺) 5. 166cm×85cm(2尺) 6. 161cm×85cm(2尺) 7. 156cm×85cm(2尺) 8. 151cm×85cm(2尺) 9. 146cm×85cm(2尺) 10. 141cm×85cm(2尺) 11. 136cm×85cm(2尺) 12. 131cm×85cm(2尺) 13. 126cm×85cm(2尺) 14. 121cm×85cm(2尺) 15. 116cm×85cm(2尺) 16. 111cm×85cm(2尺) 17. 106cm×85cm(2尺) 18. 101cm×85cm(2尺) 19. 96cm×85cm(2尺) 20. 91cm×85cm(2尺) 21. 86cm×85cm(2尺) 22. 81cm×85cm(2尺) 23. 76cm×85cm(2尺) 24. 71cm×85cm(2尺) 25. 66cm×85cm(2尺) 26. 61cm×85cm(2尺) 27. 56cm×85cm(2尺) 28. 51cm×85cm(2尺) 29. 46cm×85cm(2尺) 30. 41cm×85cm(2尺) 31. 36cm×85cm(2尺) 32. 31cm×85cm(2尺) 33. 26cm×85cm(2尺) 34. 21cm×85cm(2尺) 35. 16cm×85cm(2尺) 36. 11cm×85cm(2尺) 37. 6cm×85cm(2尺)	○毎日展審査委員・会員サイズ以内(縦横自由)	漢字・かな・現代詩文書・前衛書の各部門の創作作品競書 書道芸術掲載研究部 古典鑑賞(漢字研究) 古筆鑑賞(かな研究) ※掲載以外の部分可
					漢字・かな・現代詩文書・篆刻(八角以上)・前衛書の各部門の創作作品競書 書道芸術掲載研究部 古典鑑賞(漢字研究) 古筆鑑賞(かな研究) ※掲載以外の部分可

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1. 締切日必着厳守
2. 月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない
3. 月別出品券のコピーは不可
4. (一)初めて出品のときは「10級」と書く
(二)課題違反・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入
※△印作品審査後着
*段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3...
段位は漢数字 初、二、三...
で書いてください。

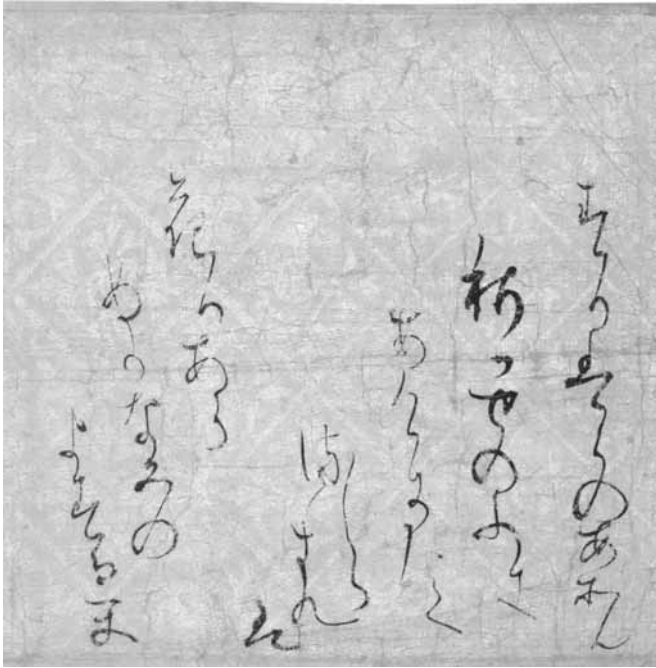
*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

用 穀 保 我 家 賦 立 儲
車 禮 降 卒 多 福 周 書 崇 眞
舟 葛 登 齋 儲 甘 異 天
眞 寶 賦 多 神 用 策 來 爲

右に示したのは参考例です。青銅器はサビや欠け、異物の付着等で、点画が不明瞭になることがあります。疑問点は字書でご確認願います。

古筆鑑賞 ②⑤

寸松庵色紙 (伝 紀貫之筆) ②



(掲載図版・70%に縮小)

〈よみ〉
 すがはらのあそむ
 秋かぜのふき
 あげにたて
 るしらぎくは
 花かあら
 ぬかなみの
 よするか

古典鑑賞 ④⑦

金文 ② (散氏盤)



(掲載図版・70%に縮小)

用矢矰 散邑 廼即散
 用田 廣 / 自 溱 涉 呂 南
 至于 大 沽 一 / 表 呂 陸
 二 表 至于 邊 柳 邊 / 涉
 溱 陸 享 叙 聚 陳 呂 西 表

特別昇段級試験

一、しめきり日 **4月15日(火)**

春季作品募集は、左記の通りです。

- 漢字 一種、二種
 - かな 一種、二種、三種
 - 漢字条幅 一種、二種、三種
 - かな条幅 一種、二種
 - ペン字 一種、二種
- 漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

第二種 (計2枚)

- 楷 臨書 蘇慈基誌銘 (蘇慈基誌銘より4文字を臨書)
- 行 創作 卷土重來 (杜牧) (巻土重來)

かな部 半紙11たて長に使用

- ・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付け可。
- ・かな部臨書・創作はともに落款は印のみ可。
- ・かな・漢字の変更自由。

第一種 (1枚)

- 臨書 高野切第三種 (半紙1枚に2首書く)
- 第二種 (臨・創 計2枚) 粘葉本和漢朗詠集
- 臨書 創作 幸くと言ひてしものを白雲に立ちたなびくと聞けば悲しも (大伴家持)

第三種 (臨・創 計3枚)

- 臨書 関戸本古今和歌集 (半紙1枚に2首書く)
- 臨書 寸松庵色紙 (半紙1枚に1首) たて12.9cm×よこ12.2cmの枠(原寸大)を半紙にとり、その中に書くこと。
- ・落款は枠外に書くこと。
- ・印のみ可。(枠外に押印)

創作

- ・逝く水の流れの底の美しき小石に似たる思ひ出もあり (湯川秀樹)

漢字条幅部 小面仙紙半切11たて長に使用

第一種 (1枚)

- 楷書または行書 花開不逐春 (奥信) (花開くも春を逐わず)

第二種 (楷・行 計2枚)

- 楷 臨書 皇甫誕碑 (皇甫誕碑より14文字を臨書)
- 行 創作 端州石工巧如神 踏天磨刀割紫雲 (李賀) (端州の石工巧みなること神の如し 天を踏み磨ける刀もて紫雲を割く)

第三種 (楷・行・草 計3枚)

- 楷 創作 圓毫促點聲靜新 孔硯寬頑何足云 (李賀) (円毫点を促せば声靜新 孔硯は寬頑何ぞ云うに足らん)
- 行 臨書 争座位文稿 (争座位文稿より20文字を臨書)
- 草 臨書 書譜 (書譜より14文字を臨書)

かな条幅部 (料紙可)

- ・かな条幅部創作の落款は印のみ可。
- ・かな・漢字の変更自由。
- 第一種 (1枚) 創作 さざ波や古き都の初もろこ (内藤鳴雪)
- 第二種 (創 計2枚) 創作 夕焼や茶屋の前の水車 (初代中村吉右衛門)
- 創作 憂き人の面影ばかり残してや 月は涙に曇りはつらむ (一条良基)

ペン字部

- 第一種 楷書 (1枚)
- 第二種 楷・行 (計2枚)

装飾経とは、種々の染めや金銀箔などを用いた料紙に写経したもので、奈良時代の遺例としては「二月堂焼経」が有名である。 ○ ○ 書

四、名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- ・創作は○○書と書く。(かな部・かな条幅部は印のみ可)
- ・臨書は○臨と書く。(かな部・かな条幅部は印のみ可)

五、受験料

- 第一種 一、五〇〇円
- 第二種 三、〇〇〇円
- 第三種 四、五〇〇円

六、審査結果と昇段級

- 成績に応じて、次の通り昇段級させる。
- 第一種は、最高秀級まで
- 第二種は、最高二段まで
- 第三種は、最高師範まで

七、応募手続

- 1 出品票はバーコード出品券を使用し、4月号(78号)の段級を記入(昇試出品券を貼付欄に貼る)
- 一種は作品の右下に貼る。二種・三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。
- 2 作品2枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりにとめる。
- 3 団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。
- 4 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。
- 5 受験申込み締切は3月21日(金)申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階
公益財団法人 書道芸術院
書道芸術編集部特別昇段級試験係
(受験番号を記入した個人専用の応募書類を送付します。)

応募書類は4月1日以後に整理発送。送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

●篆刻

【2月14日締めきり】

〈出品規定〉

- ① 篆刻 課題による語句
- ② 創作 語句自由

○印面の大きさは2.3cm（八分角）以内とする。長方形、変形印は2.5cmを超えないこと。朱文、白文自由。
○印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。

○応募は①か②のどちらかとする。

1月号 篆刻課題

〈原印コピー〉



齊白石

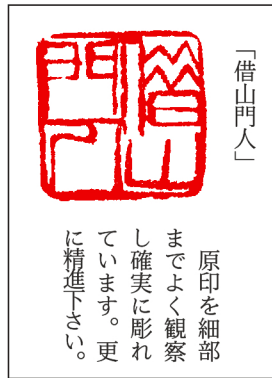
「白石」

◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の釈文を明記、並びに落款（氏名）を入れる。

763号篆刻優秀作品

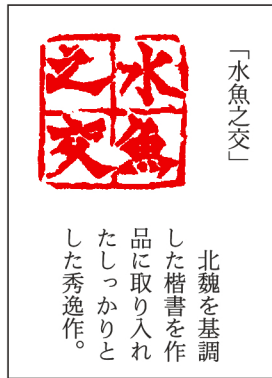
篆刻特選 平塚由香



「借山門人」

原印を細部までよく観察し確実に彫れています。更に精進下さい。

創作特選 橋本清麗



「水魚之交」

北魏を基調した楷書を作品に取り入れたしつかりとした秀逸作。

◎篆刻部総評

今回は、応募数が少なかったのですが、しつかりとした作品がありました。今後、一点でも多い応募を期待したいと思います。（大峰評）

選評 後藤大峰

（篆刻） 特選 白琉 平塚 由香
秀作（50音應） 秀作（50音應）

（創作） 特選 やま 橋本 清麗
秀作（50音應） 秀作（50音應）

大網 片岡 豪峰 新栄 加藤 万丈
蒼原 庄司 櫻空 八街 新村 翠芳
石心 成田 能喜 粹仙 藤井 龍仙
佳作（50音應） 佳作（50音應）

大雲 小沢 華仙 唯一 逢沢 唯一
" 鷺山 美梢 石心 篠田 華所
入選（50音應） 生大 中島 義則

丸山 加藤 妙子 遊雲 赤星 文庵
生大 吉原 進 游水 荒川 裕泉
香書 須賀澤 一起 入選（50音應）

今月の注目作

加藤 万丈



「大器晩成」

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土日祝日は休み)

送料

- 1か月の購読部数がある
- 1部～9部までの1回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は 送料免除

令和六年十二月二十五日印刷
令和七年一月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 下谷洋子
発行人

データ処理 株式会社リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
電話(03)3862-1195 4
東神田プラザビル3階

FAX(03)3862-1195 7
振替 00150141335058
http://www.jlins.co.jp/shogei/